

齊藤茂吉全集

第十五卷

齋藤茂吉全集

第十五卷

第七回配本（全三十六巻）

齋藤茂吉全集 第十五卷

定價 千六百圓

昭和四十八年七月十三日 発行

著者 齋藤 茂吉

發行者 岩波 雄二郎

東京都千代田區一ツ橋二丁目五番五號
株式 會社 岩波書店

印刷・精興社 製本・牧製本

落丁本・亂丁本はお取替いたします

© 齋藤茂太 1973

柿本人麿

一

目次

總論篇

自序

第一 人麿傳諸記	九
人麿傳記文獻大要	一九
柿本氏	二
人麿の本郷・生地	三
〔一〕 大和説	五
〔二〕 近江説	七
〔三〕 石見説	七
人麿の官位・日常生活其他	三

人麿の年齢.....四

〔二〕 持統元年二十二三歳說.....四

〔二〕 持統元年二十六七歳說.....四

〔三〕 持統元年二十八九歳說.....四

〔四〕 慶雲四年歿年說.....四

〔五〕 その他の雑說.....四

人麿の死及び歿處.....四

〔一〕 鴨山即ち高津鴨鳴說.....四

〔二〕 鴨山即ち濱田城山說.....四

〔三〕 鴨山即ち神村說.....四

〔四〕 人麿病志.....四

〔五〕 鴨山即ち龜・濱原說.....四

人麿の妻.....四

〔一〕 軽娘子.....四

〔二〕 羽易娘子.....四

[三]	第二羽易娘子	奄
[四]	石見娘子	穴
[五]	依羅娘子	充
[六]	卷四の人麿妻	古

第二人麿作歌年次配列

持統元年丁亥	一	圭
持統三年己丑	二	克
持統四年庚寅	三	八
持統五年辛卯	四	八
持統六年壬辰	五	八
持統十年丙申	九	金
文武三年己亥	十	金
文武四年庚子	十一	金
大寶元年辛丑	十二	八
大寶二年壬寅	十三	丸

大寶三年癸卯	六
慶雲元年甲辰	九
慶雲二年乙巳	十四
慶雲四年丁未	十五
和銅二年己酉	十六

第三 人麿評論史略

萬葉集時代	一一
古今集時代	一二
拾遺集時代	一三
新古今集時代	一四
徳川時代	一五
明治大正時代	一六
現代諸家人麿論抄	一七

第四 柿本人麿私見覺書

人麿觀諸相

短歌の極致と人麿の作歌	二三
人麿作歌の全力的態度	二五
人麿作歌のデイオニゾス的聲調	二六
人麿作長歌の特徴	二七
人麿歌集の歌	一九
人麿作歌の發育史的考察	一四
人麿作歌の經濟學的解釋其他	一一〇三
人麿時代の社會	一〇六
人麿と赤人と	一一
人麿以前	一四
人麿代作說其他	一一
人麿立傳の諸態度	一三
第五 柿本人麿雜纂	一三元
人麿の肖像	一三
〔二〕 影供の像	一三

〔二〕 高角社木像	一三七
〔三〕 戸田社の木像	一三八
〔四〕 墓阿作木像	一三九
〔五〕 小野篁刻の石像	一三九
〔六〕 集古十種所載の肖像	一三九
〔七〕 真淵・宗武の趣向像	一四〇
〔八〕 根岸短歌會考案像	一四一
人麿と同名の人々	一三一
人麿地理集	一三一
人麿歌集地理集	一三一
人麿の墓處・祠廟	一三一
〔一〕 明石柿本神社	一六九
〔二〕 高津柿本神社	一七〇
〔三〕 横本祠	一七〇
〔四〕 新庄村柿本祠	一七一

〔五〕	高市祠	一元
〔六〕	吉野歌塚	一五二
〔七〕	阿波柿本人麻呂祠	一五一
〔八〕	戸田祠	一五三
〔九〕	長門祠	一五四
	人麿影供・人麿碑文	一五五
〔一〕	柿本影供記	一五六
〔二〕	柿本神木像齋祀祝詞	一五六
〔三〕	明石の碑	一五六
〔四〕	柿本村小石碑	一五六
〔五〕	高津の碑	一五九
〔六〕	櫟本の碑	一六〇
〔七〕	高津柿本社神階宣命・位記・官符	一六一
	人麿文獻集	一六六
〔一〕	萬葉集	一六六

[二] 人麿主題の圖書	三二
[三] 人麿主題の研究論文	三九
[四] 論文にて中に人麿を論ぜるもの	三〇
[五] 人麿地理文献	三四
[六] 人麿に關する隨筆	三五
[七] 一般單行書中人麿に言及せるもの	三七
人麿文獻集補遺其一	三八
人麿文獻集補遺其二	三九
附錄一 鴨山考	四〇
其二 鴨山考	四一
附錄二 長谷川如是閑氏の人麿論を讀む	四二
第四刷跋	四三
序	四四
鴨山考補註篇	四五

鴨山考補註

四五五

鴨山考補註

四九七

〔一〕 江ノ川の舊名石川説。石水山弓峯神社縁起。石河邑

四九七

〔二〕 石川瀬見小川(山城)。石川(河内・大和・其他的諸國)。石河

清河。賀茂

五一

〔三〕 賀茂神社(中野村・矢上村・高原村)。龜村舊名賀茂(鴨)説

五四

〔四〕 鴨・神同源説。瀬見小河(伴信友)・賀茂傳說考(肥後和男)・

日本書紀傳(鈴木重胤)の説。中野村・矢上村・川本町に關する調査

五一〇

〔五〕 石見八重葎所載の濱原本郷・龜村・川本村・川下リ村に關する記事。石見國名跡考所載の記事。徳川時代の駄賃帳

五六

〔六〕 龜村に關する石見八重葎の記事。著に關する傳說及び文獻。

占有地名・利用地名其他に就て

五三四

〔七〕 龜に轉化せる語はカマ・カモ・カム・カミ等なる説。音韻相通の實例

五三〇

〔八〕 古代石見に於ける諸氏族分布の状態。神社分布の状態。島根

縣史 壱一

〔九〕 和名抄所載の邑知郡の郷名に關する註釋。古代邑知郡に於け

る郷數・戸數・人口等に就て 壱三

〔十〕 古代石見に於ける交通状態・驛制。平安初期に於ける山陰道

驛名。調物輸送の状態に就て 壱六

〔十一〕 石見國府に關する考察。邇摩郡仁萬村字御門説。那賀郡伊

甘郷説 壱九

〔十二〕 古代石見に於ける砂鐵採集に關する文献。出雲風土記・鐵

山根元錄所載の文献 五二

〔十三〕 鴨山考補註に關する要略及び結論 五四

〔十四〕 人麿は痢疫平癒、火難除、安産守護神として禮拜せらるる

こと 五七

人麿歿處高津説に就て 六四

石見八重葎所載の柿本人丸朝臣傳記。人麿戸田村出生傳説。人麿歿

處高津説。藤井宗雄の高津歿處説評。正徹物語所載の人麿辭世の歌。

上田秋成の批評（歌聖傳）。石見神祇史稿の説。鴨山考に關する反響

人麿歿處國府説に就て 五七八

武田祐吉博士の鴨山考批判 五六六

鴨山考序論の三條件に就て 五九一

人麿時代の婚姻習俗に就て 五九四

人麿歿時依羅娘子の居處に就て。萬葉集『使』の歌の例。『行旅死者』の歌の例 五六六

依羅娘子秘密妻説・嫡妻の説 五六三

人麿歿處國府諸説 五六八

人麿土葬・火葬説 五六三

依羅娘子遊行女婦説 五六九

依羅娘子遊行女婦否定説 五六五

萬葉集『妻』の用例 五六三

下府村調査要略 五六九

國府三村及び附近の字名調査 五六三

人麿歿處に關する他の諸說

六四

折口信夫博士說

六三

高崎正秀氏の巡遊伶人・采詩官說

六三

谷本政武氏の巡遊神人說

六四

出雲安來町佛島の口碑

六四

人丸秘密抄所載の明石歿處說

六五

鳴山考雜補

六五

石見名所松葉集(松平新清)・石見名所集(香川景隆・江村景憲)・石

見の海底迺伊久里(金子杜駿)・和漢三才圖會・增鏡等の所載記事

遊行記其他

六一

手帳の記(昭和五年)

六三

石見瞥見記(昭和九年)

六〇

鴨山踏査餘錄(昭和九年)

六六

備後石見紀行(昭和十年)

六四

雜記帳抄

古義